

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の事例

④ 坂下東小学校の実践



1 坂下東小学校の教育目標

「学びあう」「競いあう」「認めあう」未来を切り拓くばんげっ子の育成
○ よく考え、進んで学習する子ども
○ 感動する心を持ち、思いやりのある子ども
○ 明るく、健康でたくましい子ども

2 人権教育に関する目標

豊かな感性を持ち、思いやり認めあうことのできる子どもの育成
○ 支え合う学級づくりと自分や他の人を大切にする心の育成
○ 命を大切にし、いじめを許さない心の育成
○ 優しい心や思いやりの心の育成

3 坂下東小学校の取り組み

(1) 実践計画

月 日	内 容	備 考
通 年	朝のあいさつ運動	児童会活動
5 月 9 日 (水)	第 5 学年 1 組算数科授業研究	
5 月 1 5 日 (火)	本の読み聞かせ (1・2 年)	
5 月 2 2 日 (火)	第 1 回 QU テスト	
5 月 2 4 日 (木)	幼小連携活動・砂遊び (1 年と年少)	東幼稚園砂場
5 月 2 5 日 (金)	第 3 学年 2 組道徳授業研究	町基礎学力向上推進事業
5 月 2 9 日 (火)	幼小連携活動・学校探検 (1 年と年長)	東小学校
6 月上旬	第 1 回人権意識調査 (教職員・保護者・児童)	町人権教育総合推進事業
6 月～1 0 月	人権啓発のための花いっぱい運動	町人権教育総合推進事業
6 月 7 日 (木)	第 3 学年 2 組算数科授業研究	要請訪問
6 月 1 2 日 (火)	本の読み聞かせ (3・4 年)	
6 月 1 9 日 (火)	本の読み聞かせ (1・2 年)	
6 月 2 1 日 (木)	授業づくり研修会 (6 学年 1 組国語科)	町基礎学力向上推進事業
6 月 2 2 日 (金)	幼小連携活動・聞いて動いて (1 年と年中)	東小学校
6 月 2 6 日 (火)	本の読み聞かせ (5・6 年)	
6 月 2 8 日 (木)	児童集会活動	縦割り活動
6 月 2 9 日 (金)	第 2 学年 2 組道徳授業研究	
7 月 6 日 (金)	第 1 回 QU 研修会	
7 月 1 7 日 (火)	本の読み聞かせ (1・2 年)	
7 月 1 8 日 (水)	幼小連携活動・水遊び (5 年と年長)	東小学校プール
8 月 6 日 (月)	人権教育講演会 (道の駅あいづ湯川・会津坂下)	町人権教育総合推進事業
8 月 2 8 日 (火)	幼小連携活動・水遊び (6 年と年中)	東小学校プール
9 月上旬	小中連携活動・先輩に学ぶ (6 年と坂下中学生)	東小学校
9 月 4 日 (火)	幼小連携活動・避難訓練 (全校児童と全幼児)	東小学校

9月 4日 (火)	人権教育授業研究会 (坂下中学校)	町人権教育総合推進事業
9月11日 (火)	幼小連携活動・交通教室 (全校児童と全幼児)	
9月18日 (火)	算数科コアティーチャー授業研究会	理数優秀教員活用事業
9月25日 (火)	人権教育の授業実践① (2学年2組国語科)	
10月 2日 (火)	授業づくり研修会 (南小学校)	町基礎学力向上推進事業
10月 4日 (木)	第2回 QU テスト	
10月10日 (水)	幼小連携活動・ふれあいウォーク (全児童・園児)	東小・町内、縦割り活動
10月12日 (金)	人権教育の授業実践② (4学年2組算数科)	
11月 5日 (月)	幼小連携活動・秋と遊ぼう (1年と年中)	坂下自然の家
11月 5日 (月)	幼小連携活動・フェスティバル (2年と年長)	東小学校
11月 5日 (月)	幼小連携活動・レッツトライ (5年と年少)	東小学校
11月 9日 (金)	第2回 QU 研修会 (上学年)	
11月12日 (月)	幼小連携活動・聞いて聞かせて (4年と年中)	東小学校
11月19日 (月)	第6学年2組国語科授業研究	要請訪問
11月20日 (火)	第3回 QU 研修会 (下学年)	
11月30日 (金)	人権教育授業研究公開 (南小学校・南幼稚園)	町人権教育総合推進事業
12月 6日 (木)	幼小連携活動・遊びの広場 (2年と全幼児)	東幼稚園
1月上旬	平成30年度人権教育研究成果のまとめ	
1月中旬	第2回人権意識調査 (教職員・保護者・児童)	町人権教育総合推進事業
2月14日 (木)	幼小連携活動・体験入学 (全校児童と年長)	東小学校
2月13日 (水)	小中連携活動・学校説明会 (6年と坂下中学生)	坂下中学校
2月14日 (木)	幼小連携活動・体験入学 (1年と年長)	東小学校
2月21日 (木)	幼小連携活動・一緒に遊ぼう (3年と年中)	東小学校
3月18日 (月)	幼小連携活動・クリーン作戦 (5年と年長)	東幼稚園

(2) 人権教育を意識した授業の実践

実践事例 1	手紙の書き方を知るとともに、感謝の気持ちを伝えるための言葉の使い方の大切さに気づくことができる授業
第2学年国語科	

平成30年9月25日 指導者 茂木 和佳奈

1 単元名 「「ありがとう」をつたえよう」

2 単元の目標

感謝の気持ちを伝えるために、言葉を選び、伝えたいことを簡単な手紙に書くことができる。

3 人権教育の視点から

(1) 児童の実態について

町全体として、「学びのスタイル」の教師のコーディネートポイントである「5つのK」（「活躍する」「共感する」「比べる」「決定する」「声に出す」）に取り組んでいる。この「学びのスタイル」をもとに、児童の状態をこまめにそろえながら授業を進めてきた。その結果、少しずつ学びのルールを意識して学習する児童が増えてきている。また、授業中に積極的に挙手をする児童が多く、自力解決にも一生懸命に取り組む姿が見受けられる。一方で、集中力が途切れやすく、話を黙って聞くことができず、足並みをそろえて学習することが困難な児童や、自分の考えに自信がなく挙手を渋ってしまう児童もいる。

(2) 教材について

児童は、これまでの学習で、生活の中で経験したり印象に残ったりしている出来事を友だちや家族に伝える文章を書く活動を行っている。本単元では、児童が感謝の気持ちを伝えたい相手に手紙を書く活動を通して、伝えたいことが伝わるように言葉を選び、語と語や、文と文との続き方に注意して、つながりのある文や文章を書く力をつけることを主なねらいとしている。児童は、学校生活にも慣れ、学校内外での様々な人との関わりが豊かになってきている。学校生活の中で、自分が多くの人々に支えられて暮らしていることを実感する。児童のそうした生活経験を想起させ、感謝を伝えたい人のことを思いながら手紙を書くことの大切さを実感できるよう、本単元を設定した。

(3) 教師のコーディネートについて

本単元の指導に当たっては、手紙を書く意義やよさを実感できる活動にしていきたい。そのために、実際に手紙をもらったときの気持ちや生活科の町探検で書いたお礼の手紙をもらった相手の気持ちなどを考えさせ、手紙のよさを実感できるようにしていきたい。また、気持ちを伝える手紙を書くときには、文字や言葉の使い方に気をつけることや、文字を丁寧に書かなければならないことに気づけるよう、相手意識を明確にしたい。「学びのスタイル」については、ルールをこまめにそろえながら進めている。しかし、話の聞き方や発表の仕方には個人差が大きく、共感が深まらない場面が多い。ペアや学習や全体発表の機会を多く設定して、聞き方名人と話し方名人を意識した活動を行うことができるようにしていきたい。

4 本時の実際

(1) 本時のねらい

手紙の特徴や書き方、言葉の使い方を理解することができる。

(2) 指導過程

学習活動・内容	活動の様子
1 前時までの学習を振り返り、音読をする。	 前時の学習を振り返り、めあてをとらえ、手紙のよさについて考えていく。
2 本時のめあて。	
⑥ 手紙を書くときに大切なことは何だろう。	

3 手紙のよさについて考える。 (1) 今までの経験から、手紙をもらったときの気持ちを考える。 ・うれしい。 (2) 手紙のよさについて考える。 ・読み返すことができる。 ・気持ちが伝わる。 4 手紙の書き方や言葉の使い方について考える。 (1) 教科書の2つの例の書き方で同じところと違うところを考える。 ○同じところ ・感謝の言葉が入っている。 ○違うところ ・言葉遣いが違う。 (2) 手紙を書くときに気をつけることを確認する。 ・伝えたいことをわかりやすく。	 手紙をもらったときの気持ちを考えて発表したり、ノートに書き出したりすることで、手紙のよさや相手に気持ちを伝える大切さについて考えることができた。  2つの手紙例を提示することで、常体や敬体による文末表現の使い分けに目を向けることができた。  手紙を書くときに気をつけることを全体で確認することで、感謝の気持ちが伝わるように詳しく書くことの大切さを実感した。
5 本時のまとめをする。 ㊦ 手紙を書くときは、気持ちが伝わるように詳しく書く。 6 学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。 (1) 感想を書き、発表し合う。 (2) 次時は実際に手紙を書くことを知る。	本時の学習の感想を書き、発表し合うことで、手紙を書くときに大切なことを深化させることができた。 

5 授業の考察

(成果)

- 実際に自分が手紙をもらったときのことを振り返らせることによって、手紙のよさや相手に気持ちを伝える大切さについて考えることができた。
- ペアや全体で自分の考える「手紙のよさ」について確認することで、さらに深めることができた。
- 2つの手紙例を提示することで、常体や敬体による文末表現の使い分けに目を向けたり、詳しく書くことの大切さに気づいたりすることができた。

(課題)

- 読み手に伝わりづらい文章を書く児童もいる。国語での指導や作文指導等で継続的に指導することが必要である。
- 常体と敬体を混同してしまう児童や時と場合に応じた使い分けのできない児童もいるので、今後も指導する必要がある。

実践事例 2	自分と同じ考えに共感したり、違う考えに気づいたりすることで、自分や友だちのよさを認め合うことができる授業
第4学年算数科	

平成30年10月12日 指導者 時末 耀

1 単元名 「ちがいに目をつけて」

2 単元の目標

分配や移動を伴う2量の差に着目して、関係を単純化してとらえ、言葉や図、式を用いて説明することができる。

3 人権教育の視点から

(1) 児童の実態について

町全体として、「学びのスタイル」の教師のコーディネートのポイントである「5つのK」（活躍する・共感する・比べる・決定する・声に出す）に取り組んでいる。意識調査では、「授業中自分の考えを持つことができているか（決定する）」の質問には、86.7%の児童が「いつも・だいたいできる」と答えている。さらに「友達の考えと自分の考えを比べながら学習しているか（比べる）」の質問には、96.7%の児童が「いつも・だいたいしている」と答えている。一方、「しっかり声を出して学習しているか（声に出す）」の質問に「あまり・していない」と答えた児童が16.7%、「自分の考えを発表しているか（活躍する）」の質問に対しては「あまり・していない」の回答が26.7%となっている。この結果から、自分の考えを持ち他の児童の考えと比べたりする意識は高いものの、自分の考えを積極的に表現しようという意識は低いと考えられる。

(2) 教材について

児童は、3学年の「考える力をのばそう」の学習で、テープ図を利用した問題解決学習を行っている。また、線分図に表し、場面の数量関係を表すことのよさと、図をより簡潔に表現する学習も行っている。本教材では、線分図をかいいたり読んだりすることにより、問題場面の構造を把握し、手際よく問題を解決する力を高めることがねらいである。提示する問題は、線分図に表すとともに、そこから情報を読み取るなど、線分図の用い方を身に付けさせることのできるものである。多様な考え方が予想されることから、「決定する」「比べる」「共感する」場面が期待される。

(3) 教師のコーディネートについて

本時では、線分図を使って自分の考えを式に表し、図と式を用いて考えを伝えさせることを重視したい。本時では、2つの数量の違いを明確に線分図に表すことが問題解決のポイントとなる。2人の枚数が比べやすいように端をそろえて並べる。この、2本に分けた線分図は、未知の数量（それぞれの枚数）を残しつつも、条件通り分けるとこうなるという関係を示した図となるので大切に扱いたい。さらに、線分図を用いて説明させ、友達と話し合いをしてよりよい問題の解き方を見つけるようにする。このような活動を通して、友だちと協力し合うこと、友だちのよさから学ぶこと、問題を解決することができた自信など、自他の大切さを実感できるようにしたい。

4 本時の実際

(1) 本時のねらい

分配や移動を伴う2量の差に着目して、関係を単純化してとらえ、言葉や図、式を用いて説明することができる。

(2) 授業の考察

学習活動・内容	活動の様子
1 本時の課題をつかむ。 こうたさんとりこさんは、60まいの色紙を2人で分けて、つるを折ります。りこさんのまい数のほうが、12まい多くなるようにします。それぞれの色紙の数は何まいになりますか。	 真剣に話を聞き、課題やめあてをつかもうとしている。

2 本時のめあてをつかむ。 ㊦ 色紙の求めるにはどうすればよ いかな。 3 見通しを持つ。 ・線分図 ・式 ・言葉	 紙テープで線分図を作る 操作活動をすることによっ て、見通しを持って自力解決 につながることができた。
4 自力解決をする。 ・ 違いの12枚を引いて2等分して いる。 $60 - 12 = 48$ $48 \div 2 = 24$ $24 + 12 = 36$ ・ 違いの12枚を足して2等分して いる。 $60 + 12 = 72$ $72 \div 2 = 36$ $36 - 12 = 24$ 5 全体で考えを共有し、説明し合う。	ペアで考え方を話し合うこ とで、自分の考えに自信を持 つことができた。   多くの友だちと話し合う ことで、相手のよさを認め合 い、協力し合う大切さが分か った。
6 本時のまとめをする。 ㊦ ちがいの12まいに目をつけ、 図に表すとよい。 7 本時の学習を振り返り、適用問題 を解く。	全体でそれぞれの考え方に ついて話し合うことで、自分 と同じ考え方、違う考え方、 多様な考え方を認め合うこと で、知識が深まることを実感 した。 

5 授業の考察

(成果)

- 自力解決の糸口を見つけ出すことができるよう、色紙を配る前を表した線分図を紙テープで提示することで、見通しを持つことができた。
- 見通しが持ちにくい児童に線分図のヒントカードを与えたことにより、解決の手がかりとなった。
- 机間指導で、児童の考え方を称賛することで、自信を持つことができた。
- 同じ考えの児童同士で考え方を確認させることで、共感し合うことができた。
- いくつかの考え方を黒板に書かせ、同じ考えのものにネームカードを貼らせることにより、同じ考えの友だちが多くいることに気づいたり、違う考えを知り認め合ったりすることができた。

(課題)

- どうしても自力解決ができず、他の児童の考え方を聞いて理解することができた児童もいた。毎時間とはいわないが、全ての児童に自力解決できた喜びを味合わせるような手立ても必要である。
- 考え方の優劣や自分の考えにこだわる児童も見られるが、いろいろな考え方を認めた上でよりよい考え方を追求していけるようにさせたい。

(3) 人権が尊重される環境づくり

①「ふれあいウォーク（縦割り活動・幼小連携）」

異学年の班活動のよさを生かして、互いに協力し合い安全に楽しく活動するとともに、幼稚園との交流を通して、互いを思いやる気持ちを育てることができた。



②「聞いて聞いて（幼小連携・2学年）」

国語科の学習を生かして園児に音読を聞かせるとともに、業間運動を一緒にすることで温かい人間関係を築くことができた。



③「人権の花栽培活動（児童会・栽培環境委員会）」

児童会の栽培環境委員会が中心となって水やりなど花の世話をし、植物など生き物に大切にすることを学ぶことができた。また、登下校時など児童がこの花を目にし、心とませることができた。



(4) 成果と課題

① 成果

- 人権教育の指定を受けて1年目、授業研究会や講演会等に参加し、教員の人権教育に関する理解が深まった。
- 幼小中連携活動、縦割り活動等で、児童は互いに助け合い、相手を思いやる気持ちを養うことができた。
- 現職教育のテーマ「学ぶ楽しさを実感し、学びあう児童の育成」の下、各学年学級で授業研究を行い、学び合い、教え合いなどの活動を通し、互いを認め合う気持ちを高めることができた。

② 課題

- 今年度、本校は研修するという立場で臨んだ。来年度は2年目のまとめの年でもあり、研究公開等もあるので、さらに積極的に取り組みたい。
- 人権教育に関する活動に取り組み成果を上げることができたが、次年度は児童にとって、さらに人権として意識づけてとらえることができるよう取り組んでいきたい。

